

H 2 3 年 度
「患者と家族のがん研究基金」実績報告会
Cancer Research Funds for Patients and Family

プログラム抄録集

日 時 平成 24 年 5 月 15 日
午後 7 時 30 分 (総会終了後)
場 所 千葉県文化センター 9 階会議室
主催 NPO 法人 医療・福祉ネットワーク千葉

～次 第～

◇ 開会の辞 竜 崇正 (理事長)

◇ 司会進行 風間 ゆり子 (事務局)

◇ 成果発表

座長 中川原 章 (常任理事・千葉県がんセンター長)

1. 『がん患者の在宅療養における遠隔医療の有用性に関する研究』

千葉県がんセンター経営戦略部 浜野 公明

遠隔テレビ会議システムを使用して、終末期がん患者の在宅療養症例を対象としたデスカンファレンスを行い、その有用性を検討した。カンファレンスには当該患者の終末期緩和ケアに関わったすべての病院、診療所及び訪問看護ステーションの医師・看護師が参加した。デスカンファレンスはチーム医療の質向上を図れる点で意義があった。在宅医療におけるチームカンファレンスの実施には時間・空間的な制約があるが、情報通信技術の活用により容易であった。

2. 『拡散強調MRIによる食道癌補助療法の早期効果判定法と効果予測法の開発』

千葉大学大学院 先端応用外科 首藤 潔彦

【目的】MRI拡散強調画像を用いた食道癌補助療法の早期効果判定への有用性を検討した

【対象と方法】食道癌補助療法施行76例を対象とし、(1)組織学的治療効果、(2)CRTの臨床的治療効果とADCの関連性を検討した。【結果】(1)組織学的奏効例では有意なADC上昇が見られた。(2)CRTの臨床的奏効例では20Gy後に有意なADC上昇が見られた。【まとめ】本評価法は食道癌補助療法の組織学的治療効果判定やCRTの早期治療効果予測法として有用と考えられた。

3. 『食べ物とオストメイトの生活の質向上』

千葉県オストミー協会 村山 輝子

オストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）排泄機能障害者とその家族には、人に言えないガスと臭いの悩みがある。今回は、まずオストミー協会会員を対象にアンケートを行い、臭いやガスの原因となる食材、腸閉塞などを起こす恐れがあるため食べるのを避けている食材を洗い出した。「食べられない」との声が多かった野菜、海藻類、食物繊維の食材を中心に、ピューレやムース状にするケアフードで試すことにし、フランス料理シェフの指導を受けて具体的なレシピを考案、調理実習した。会員有志でその後も調理、試食を繰り返し実施。その結果、これまで食べられなかった食材を美味しく食べることができ、さらに腸閉塞、便秘、下痢、ガス、においの不安や悩みも解消できた。ケアフードによってオストメイトの食生活を豊かにすることが証明できた。